

校長室だより		令和4年9月16日発行
<b>共学共高</b>	第	
	30	発行責任者
	号	白梅学園高等学校長 武内 彰

## 体育実技における生徒間の対話

本校では、毎年「授業研究週間」を開催して、先生たちがお互いの授業を自由に参観し合う研修の機会がある。今年も9月13日から10月8日までの期間で実施されている。私もこの機会にさまざまな先生方の授業を参観することになっている。

保健体育科のH先生が担当する1年2組のバスケットボールの授業にお邪魔した。私は、概ね授業開始5分前には授業場所に到着するようにしている。第2体育館に到着すると、すでに多くの生徒たちが集まっていた。昼食後の5校時目ということもあり、早めに来ているのかなと特に気にせずに行ったところ、驚きの光景が眼前に展開された。授業開始5分前になると、体育委員の生徒2名が前に立ち、全員集合・整列するではないか。「一人ひとつずつボールを持ってください。」と言いながら、全員にバスケットボールを手渡ししている。全員に行き渡ると、ドリブルをしながら体育館内を反時計回りに列をなして回り始めたのだ。どうやらこれがアップになっているようだ。全員が3周を終えると、ボールをかごに戻し、再び集合整列して、準備体操を始め出した。ここでも体育委員の生徒2名が前に出て、掛け声をかけながら、しっかりと体操をした。また、その後、腹筋、腕立て伏せといった筋力トレーニングを全員が行ったのだ。一般的に女子生徒は、こうした筋力トレーニングを嫌がる傾向があるのだが、生徒たちはそうした素振りを見せずに黙々と取り組んでいる。

ここで授業開始のチャイムが鳴ると、H先生が前面に出て、あいさつ、出席確認となる。先生から「今日は、主にドリブルシュートを練習し、最終的にはパスをもらってドリブルシュートをします。」と伝えられる。体育実技の授業では、グラウンドで実施されるときにも同様に、体育委員の生徒を中心にアップをしているとのことだ。

次に、H先生が中心に位置し、先生を囲むようにして全員が大きな輪を作る。そこで、ひざの屈伸、伸脚、アキレス腱ストレッチ、手首足首の回旋、手首のストレッチなど、種目に応じた補充準備運動が行われる。続いて、各自でボールを持って、顔の回り、お腹の回り、ひざの回りでボールを周回させる。さらには、両足を開いて、その間でボールを床に落とすことなく両手を持ち替える動作、両手で三角形を作ってボールを真上に上げる練習へと進んだ。真上に上げる練習の途中で、バスケットボールの技能が高いSさんとH先生が二人の間でチェストパスを実演し、H先生が「このチェストパスの要領をイメージして真上にトスするように」アドバイスをして、生徒たちが再び各自で取り組む。

次に、全員が iPad を手にとって、記録表を開く。そこに日付を記入して、シュート練習へ。6 か所に分かれて、30 秒間でシュート練習、その後、一人 10 秒間でシュート練習を行い、成功本数を記録表へ記載する。

続いて、フリースローの練習である。一度集合して、S さんのフリースローをお手本として見る。2 本打って、いずれも成功。周囲からおもわず拍手が起きる。手の位置、ひじの使い方、ひざの使い方などを確認して各自で練習へと移る。一人 5 本ずつ挑戦して、成功本数を数える。さらに、ドリブルシュートでも、S さんのお手本を全員で確認してから、ゴールの右側から、左側からドリブルシュート練習をする。ペアを作って、相手のフォームを iPad で動画撮影し合う。自分のフォームを見た後、相手から感想をもらう。さらにお手本のシュートと比較して自分との違いを考える。違いを 2 つ挙げて、ペア同士で伝え合う。また、次のシュート練習で気を付けることを 2 つ考えてお互いに話し合うのだ。技能の向上を目指すプロセスにおいて、客観的な動画や生徒間の対話を活用する取組がなされている。



最後に、ドリブルしているペアからパスをもらってシュートする練習で締めくくられた。その後、ボールをかごにしまって整理体操をしてあいさつ、解散である。

生徒たちの取組は、しっかりしたものであり、シュートを決められる確率も上がってきているようだ。なかなか、決められなかった生徒も続けて決められるようになると、笑顔がこぼれて達成感を得ている。H 先生も、実技指導の中で「生徒間の対話」を上手に取り入れ

て、技能の向上を図ってくれている。若い先生であるが、いい取組をしてくれて、生徒たちもそれに応えてくれているのが嬉しかった。どこまで実技の授業が進化していくのか楽しみである。

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)